

第5章

三重県男女共同参画センターで 取り組んできたこと

萩原　くるみ

1 はじめに

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」（以下、フレンテみえ）といえば、「ナナ」に象徴されるといっても過言ではないくらいインパクトのあるオブジェがセンターの正面に堂々と立っています。ニキ・ド・サンファル作の「La Grande Temperance 《中庸》」、通称「ナナ」。羽を広げ、胸を張って、フレンテみえがある三重県総合文化センターを訪れる人々を迎えてくれます。ナナとはフランス語で女子を意味する俗語です。そして「フレンテみえ」の「フレンテ」は、スペイン語で前向きという意味です。センターを利用する人々が、前向きな気持ちを持てるようにという願いが込められています。フレンテみえは、三

写真1 フレンテ事務所前の
広場に立つ「ナナ」

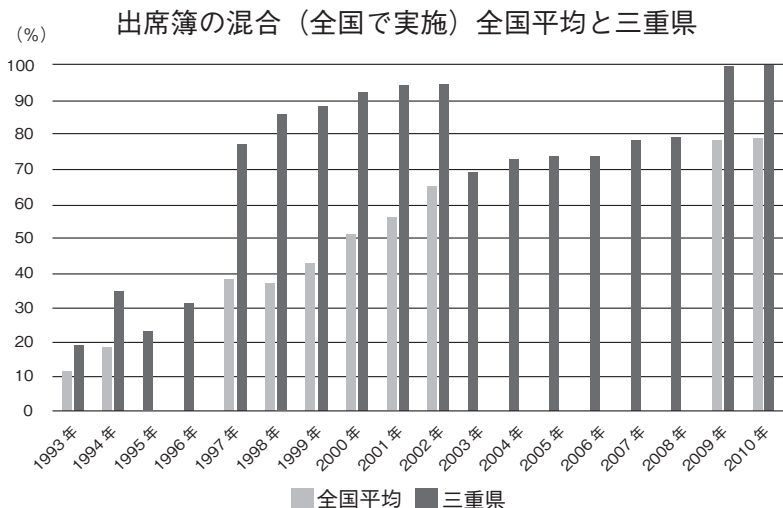


重県の男女共同参画を進める拠点施設として、「情報発信」「研修学習」「人材育成」「相談」「調査研究」「参画交流」の6本柱で事業を展開しています。

2 学校は平等？私の使命は…

私は、38年間教職員として、小中学校や、教育委員会事務局等で勤務し、退職後の2019年に所長の仕事に就きました。教員採用時の1980年、家庭科教員を中心に家庭科と技術科の一部単元を男女がともに学習する男女相互乗り入れ授業を行い、男女共修を進めようとしている時代でした。今、年表を見返すと、国連が女子差別撤廃条約を採択した翌年で、日本の批准にはこの家庭科履修問題が大きく立ちはだかっていたことをこの職に就いて認識した次第です。現在、中学校学習指導要領が改定されて正式に「技術・家庭科」という教科となり、性別にかかわらずだれもが家庭科も技術科も履修しています。

グラフ1 三重の女性史研究会作成



年表1 三重の女性史研究会作成

新聞に見る三重の男女混合名簿①

1988 年ごろ 三重県教職員組合婦人部、男女平等の見直しを提唱する。【中日新聞】

1990 年ごろ 学校現場に男女混合名簿が登場し始める。【伊勢新聞】

1991 年 4 月 8 日 一志郡香良洲小学校と県立松阪商業高校で男女混合名簿導入。
入学式が、男女混合、五十音順の出席簿で実施される。【中日新聞】

1993 年 7 月 三重県教職員組合女性部が男女混合名簿調査。すべての公簿類の男女混合は、小・中・高で 95 校。公簿以外の名簿が男女混合の学校を合わせると小学校だけで 122 校、全体の 27%に上る。【読売新聞】

1994 年 1 月 17 日 名張市すべての小学校で男女混合名簿を実施と判明。中学校は 5 校がまだ男女別名簿。名張市教育委員会が調査。【伊勢新聞】

1994 年 9 月 8 日 桑名郡木曽岬小学校 PTA「みさき」、PTA 新聞広報紙作品展で企画賞。母親 10 人、同年度から始めた男女混合名簿を特集。【中日新聞】

さらに、男女混合名簿への取組が始まりました。男女別での記録を求められる名簿もあり、混合名簿と男女別名簿との二重に名簿を作るなど、少し面倒なことがあっても、必要な改革であるとともにで共通に理解して、取り組みました。三重県では年表にあるように1990年ごろから小中学校に登場し、2009年にはほぼすべての学校で混合名簿になっています。これまで「男が先」「長となるのは男性」といった意識を植え付けてきたのは、男女別名簿をはじめとした幼いころからの慣行が元になっているのだと改めて認識しています。当時から「隠れたカリキュラム」をなくしていこうと、メディアにおけるジェンダーバイアスをチェックしたり、独自に考えた授業を公開しあったりもしましたが、今もなお大きく変わらない取組をしているようにも思います。

世界経済フォーラムが発表しているジェンダーギャップ指数において、「教育」のスコアは、2024年発表のもので、0.993。146ヵ国中72位という結果でした。これは、「政治」や「経済」の分野に比べると高いスコアです。国の世論調査や三重県の男女共同参画に関する意識調査を見ても学校教育の場

では男女が平等だと感じる人は半数以上になっています。しかし、国立女性教育会館（以下NVEC）の「学校における男女共同参画」の研修を受講し、学校において作られているアンコンシャスバイアスという言葉にハッとさせられました。漫然と過ごしてきた日常の中に自分たちが恐れていた隠れたカリキュラムがたくさんあり、それらを見過ごしていたことに……。校務分掌の給食や図書館担当は女性で、男性が生徒指導や体育の担当になっていたことが多かったように思います。現在は、この偏りはかなり少なくなってきたように思いますが、学校の女性管理職割合は依然として低く、ようやく三重県の小学校で女性の管理職（校長、教頭）が3割を超えたというのが実態です。しかも中学校や高等学校、大学と進むにつれ、女性管理職割合はぐっと低くなっていきます。

そんな現状を打破していくには、まず、幼い頃の教育が重要であることを強く認識しました。校長や教頭、指導的な立場の教員の多くが男性になっている風景、PTA役員や委員には女性が多いのに会長となると男性が担っている事実、入学式や卒業式の来賓席の前列に並ぶ男性議員や自治会長の姿。こんな光景が知らず知らずのうちに子どもたちの意識に「リーダーになるのは男性」だと植え付けてしまっているのではないかということをいまさらながら認識するとともに猛省しています。こういった風景をがらりと変えることは難しくても、そうではない姿があることを教えていくことはすぐにでもできるはずです。学校は誰もが通ってくる道で、その学校の中のジェンダーバイアスを作る元凶を取り除く取組は、まさしくジェンダー主流化です。学校に通う世代や、学校に関わる方々にジェンダー平等の理解を促す取組推進が、教職員出身の私の使命だと考えました。

また、私自身、上司から管理職試験を受けるよう強く促されて管理職を経験し、とにかく無我夢中でやってきましたが、そんな女性は少数派でした。ロールモデルの少なさが、「私には無理」とか「管理職になる自信がありません」といった思いを持たせてきたのではないかと思います。そしてそれぞれの家庭の中で、女性が家事・育児・介護を担っている時間が圧倒的に長い

という現状を見つめなおし、まず身近な場面でのジェンダーの平等を推進すること、女性のエンパワーメントをしていくことも引き続き取り組んでまいりました。

3 フレンテみえの取組

子どもたちに届けるために

フレンテみえには「フレンテトーク」という出前講座の枠組みがあり、フレンテが主催するイベントや講座に来ていただく方々だけに啓発するという待ちの姿勢ではなく、私たち職員が出向いて発信するスタイルを、初代所長より進めてまいりました。昨年度のフレンテトークの回数は147回、過去最高を記録しました。内容は、『ワーク・ライフ・バランス』や『ハラスメント防止』、『デートDV・DV防止』、『防災・減災』、『性的マイノリティ』などですが、いずれの場合も「ジェンダー」の視点で話をします。

対象は、すべての世代です。自治会の会合や、自治体主催の講演会、企業の研修会に出向くという場合もありますが、学校や幼稚園、保育所、小中学校、高等学校、大学や短大、専門学校からも依頼があります。教職員や子どもたちに対して啓発できる絶好の機会です。私が教職員出身であることを知り、徐々に学校からの依頼も増えました。また「ジェンダー」という概念や言葉が脚光を浴び、学校の人権教育の分野でも扱われることが増えてきました。

写真2 絵本「みっちときりー」表紙



昨年は、ある高校で、全学年の全担任が同一の自主教材（進路選択におけるジェンダーバイアス）で授業をした後、900人を超える教職員や生徒の前で「ジェンダー平等」に関する統計やクイズを出して考えるという出前講座を実施しました。授業後たくさんの質問が送られてきて、生徒の関心の高さを感じました。ほかにも中学校、高等学校のフィールドワークや社会見学で生徒がフレンテみえを訪れる場合もあり、事前に担当の教員と打ち合わせをして、生徒や地域の実態に合わせた資料を作成し、ジェンダー平等や自尊感情の話をしています。

また、幼い時期からジェンダー平等、自分らしさを考える機会とするため、調査研究事業として、フレンテみえオリジナル絵本「みっちときりー」を自主作成し、県内の保育園、幼稚園、小学校に配布しました。翌年には、小学校や保育所に声をかけ、実際に絵本を活用した取組を実践していただきました。生活科や総合学習の時間での取組のほか、朝読書の時間での活用、人権擁護委員による人権学習での活用等、様々な事例を報告いただき、その報告をまとめた活用事例集を作成しました。他の園・学校での活用の手引きとして役立てていただいています。

その翌年には、毎年開催されている三重県教育研究集会の「男女の自立と共生」分科会で、この絵本を題材にした実践発表がたくさんありました。絵本は今も施設内のショップ等で販売しており、県外の自治体や小学校等から

写真3 2022年フレンテまつりのチラシより



も購入の希望がきています。

さらにもっとたくさんの若い世代にフレンテみえを知ってもらうことも必要であり、6月の男女共同参画週間に合わせて、子ども向けイベント「フレンテまつり」を行ってきました。コロナ禍の2021年度、2022年度は、オンラインでジェンダーに関する謎解きゲームを開催しました。コロナ後の2023年度からは、心機一転「フレンテフェスタ」と改め、「リコチャレ」をテーマに理系分野のテーマで活躍されている女性による楽しいショーイベントに加え、子どもたちが実際に工作体験をしたり科学的な思考にチャレンジしたりする「ものづくりワークショップ」も設けました。

さらに県内の男女共同参画を推進されている団体にもブースを構えていただき、啓発活動や展示等を行っていただきました。一昨年度からは高校生や大学生にも出展をお願いし、若い世代が参画する工夫をしています。

4 すそ野を広げる

すべての県民へ

フレンテみえでは、ジェンダー平等のエッセンスをちりばめた講演会、ファンファーレ事業があります。毎年度早い時期に実施しています。いわゆる専門家ではなく幅広い分野から著名な方を講師に迎え、講師の方の生き方や仕事への姿勢をジェンダーの切り口でお話いただき、間口を広げた形の発信をし、多くの方にジェンダー平等が届けられるようにしています。それに対して3月の国際女性デーに合わせた男女共同参画フォーラムは、男女共同参画にぐっと焦点をあわせた内容の企画を考え、県内で活動している団体やグループの方々とも一緒になって企画を作り上げています。

先に記した年表1やグラフ1は、フレンテみえを拠点に活動されている団体「三重の女性史研究会」が、三重県の男女混合名簿の取組の経緯を調査され、国際女性デーに合わせた「男女共同参画フォーラム～みえの男女（ひと）2023～」において発表してくださいました。また市民活動等への助成金交

付制度もあり、長年にわたり男女共同参画を支える団体への支援と同時にフレンテの活動をさらに幅広いものにしていただいています。

市町とは、三重県内男女共同参画連携映画祭の実施や、フレンテ作成の啓発パネルをイベント等で展示いただくなどして、フレンテみえとともにジェンダー平等の浸透に尽力いただいています。

相談事業もフレンテみえの重要な事業の1つです。直接県民の相談を聴いている職員が、新しい事業企画にも関わり事業部門の職員と一緒に意見を交わしながら企画を考えていきます。日々の相談からヒントを得た事業として、女性のためのサポート講座や「女性のための自分も相手も大切にするトレーニング」、DVや母娘関係に悩む方々への講座等があり、ここ数年連続して実施してきました。

5 フレンテみえの今後

みんなに届けナナパワー！

フレンテみえは、劇場や図書館と一体になった複合施設「三重県総合文化センター」の中にあります。2024年はセンターの開館30周年に当たります。周年事業として冒頭で紹介した「ナナ」の作者、ニキ・ド・サンファルの作品展（以下ニキ展）を2024年8月31日から9月23日まで開催しました。

ニキ・ド・サンファル（以下ニキ）は女性としての生き方を常に模索し、発信し続けた作家です。アートの拠点でもあるというセンターの強みを生かし、「ココロがうごく。ミライをえがく」をテーマに開催しました。

この事業はNWECCの萩原なつ子理事長のお声掛けにより実現したもので、会場にも駆けつけてくださいました。ニキの大ファンである上野千鶴子さんの講演会も実現し、講演会后、たくさんの方にニキの作品に触

写真4 ニキ展ロゴ



Ⅱ 実践の展開

れていただきました。広場の「ナナ」は見たことがあっても、この作品が生まれた経緯や作者についての県民の知名度は、それほど高くないのが現状でした。那須にあったニキ美術館はすでに閉館しており、この規模のニキ展は希少です。アンケートには「よくぞ開催してくださいました」という賞賛の声や、「ニキの苦悩や葛藤、そして自由な女性が描かれていて勇気をもらえた」などのお声をいただきました。

退職後私も、これまでの所長もそして新所長もフレンテみえからの要請で出前講座に出向いております。今後もフレンテの活動を陰ながら支えてまいります。そして、この広場のナナとともに三重の地にジェンダー平等が確実に根付いていくことを心から願っております。

写真5 ニキ展会場にて
フレンテ宇田課長、萩原理事長、萩原



引用文献

三重の女性史研究会作成資料 2023（三重県男女共同参画フォーラムのパネル展示にて発表）

（年表1）「三重の男女混合名簿、達成の記録」中間報告（5）より

（グラフ1）「三重の男女混合名簿、達成の記録」中間報告（7）より

参考資料

内閣府政府広報室 2023『「男女共同参画社会に関する世論調査」の概要』

<https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-danjo/gairyaku.pdf>

国立女性教育会館 令和3年度「学校における男女共同参画研修」

https://www.nwec.go.jp/event/training/g_kyoin2021.html

国立女性教育会館 2021『学校における男女共同参画の推進のための教員研修
プログラム実施の手引き：文部科学省委託事業 令和2年度「次世代のライフ
プランニング教育推進事業」(男女共同参画の推進に向けた教員研修モデルプ
ログラムの開発)』

[https://www.nwec.go.jp/about/publish/n2ih1m000000072c-att/
n2ih1m000000095y.pdf](https://www.nwec.go.jp/about/publish/n2ih1m000000072c-att/n2ih1m000000095y.pdf)

三重県 2020『令和元年度男女共同参画に関する県民意識都生活基本調査概要
版』

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000882538.pdf>

三重県教育委員会における女性活躍の推進 令和6年度

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001150883.pdf>

三重県男女共同参画センターホームページ

<https://www.center-mie.or.jp/frente/>

(おぎはら・くるみ 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」前所長)